

福島県立会津高等技術専門校

福島県立会津高等技術専門校 近内 保二

1. はじめに

会津高等技術専門校は、戊辰戦争の悲劇で知られる「白虎隊」や「鶴ヶ城」、民謡「会津磐梯山」、千円札でも注目された世界的な医学者「野口英世」などで有名な「会津^{あいづ}」の地にあります。

位置的には、東北地方南部の福島県、その西部に位置する会津盆地の北部、「ラーメンの町」「蔵の町」で有名な喜多方市（旧耶麻郡塩川町、平成18年に合併し喜多方市となる。）に、昭和36年、福島県立会津職業訓練所として開設され、会津地方において、地域産業界を支える技術者の養成施設としてこれまで多くの優秀な人材を輩出してきました。

その後、昭和44年に福島県立会津専修職業訓練校と改称、昭和57年には同じ町内の現在地に校舎を新築・移転、名称を『福島県立会津高等技術専門校』と改め、現在に至っています。



写真1 校舎

また、設置訓練科は、職業訓練所当初の板金科と塗装科の2科から高度経済成長期など時代の変遷とともに変化し、高等技術専門校と改称した昭和57年からは、地元企業等が求めるより実践的な知識と技能を有する人材育成のため高卒者を対象とした普通課程へと移行、訓練科ごとに移行時期が異なったものの訓練期間も1年から2年へと改変、平成15年度からは、すべてが高卒2年課程の4科体制となりました。

本県の高等技術専門校は、「会津校」のほかに、県の内陸部は中通り地方の中程に位置する郡山市に在る「郡山校」と、太平洋に面する浜通り地方の北部に位置する南相馬市に在る「浜校」の3校が配置され、それぞれの地域産業に添った訓練科を設置しています。

2. 会津校の訓練内容

会津校は、「忍耐（耐え忍ぶ）」と「自^{じきょう}強^{やまず}不息（自ら努め励んで怠らない）」を校訓として、情報化の進展やさまざまな技術革新によりめまぐるしく変革する時代の中で、地域産業界が求める高度な技術・技能と柔軟な対応力を身に付けた若い実践的技術者の育成を目的とする普通課程とともに、短期課程として求職者に対する職業能力開発による就職支援や在職者に対する技術向上セミナーの開催などを行い、関係機関との連携のもと会津地方の「職業能力開発総合センター」としての役割を担っています。

現在、普通課程は4科（電気システム科、環境シ

ステム科，自動車実務科，観光サービス科）を設置し，各科の定員は20名で，それぞれが特色を生かした教育訓練体系のもと，少人数制による繰り返し訓練を主に，施設外での研修の実施や多くの経験豊かな外部講師を招聘するなど，より充実した最新の技術習得ができるよう努めています。

また，資格取得にも力を入れており，各科ごとにより上位の資格を目標に設定し，より高い合格率を目指しています。

さらには，「あいさつ」などの接客マナー訓練にも力を入れ，常に顧客意識を持ち，自ら考え，行動できる人材育成を目指して指導しています。

それでは，普通課程各科をご紹介します。

(1) 電気システム科

電気システム科は，住宅や店舗，工場の電気工事や保守管理に関する知識・技術を習得させることを主たる目的としています。

また，電気工事に関する実習や卒業研究の題材として，過去の技能五輪電工職種の地方大会や全国大会での課題の制作なども取り入れています。



写真2 電気システム科実習

さらに，ニーズ学科として製造業における生産ラインに使用されているメカトロニクス機器の操作やメンテナンス，コンピュータ制御やプログラミングなどの専門知識も習得させています。

資格取得としては，第1種電気工事士をはじめ第3種電気主任技術者の資格にも挑戦させ，近年は学科の合格者を輩出しています。

なお当科は，経済産業省認定の第2種電気工事士養成施設になっています。

(2) 自動車実務科

自動車実務科では，エンジンやシャシ，電装の構造など自動車に不可欠な教科を中心に指導しています。また，ハイブリッドカーやその他の最新技術については，県内企業から講師を招聘し，指導をいただいています。



写真3 自動車実務科実習

また，自動車整備はサービス業であるとの認識のもと，あいさつや実習場の清掃にも力を入れています。あいさつは，実習の初めに30メートルほど離れた所からの大声による「いらっしゃいませ」などの声出し練習を行っています。また，毎日の実習終了時には，学生が隅々まで自主的に清掃する習慣を身に付けており，2年生のそういう姿を見て1年生が受け継ぐという，良い伝統が続いています。

当科は，国土交通省の「第一種自動車整備養成施設」となっており，当科を終了すると2級自動車整備士試験の受験資格が実技試験免除得られます。

2級自動車整備士には，ガソリンとディーゼルの2種目があり，当科においては，6年連続で全員が両種目合格という記録を更新中で，後輩もこの記録更新を目標の1つに掲げ，全員がプレッシャーの中で団結して訓練に励んでいます。

(3) 環境システム科

環境システム科は，建築物の基本構造を理解させ

ながら給排水衛生設備や冷凍空調設備の基本知識とともに、設備計画から設計図作成までの設計技術を学びます。



写真4 環境システム科実習

また、施工技術において、銅管・銅管・塩ビ管などの加工・組み立て技術を2級技能検定実技試験の合格レベルまでを習得させるとともに、液化石油ガス設備士や第2種電気工事士資格取得に向けた訓練なども行っています。このように、当科は幅広い訓練を行わせることにより、建築設備のスペシャリストを育成することを目的としています。

資格として、第2種電気工事士、2級施工技能士（配管・冷凍空調機器施工）、液化石油ガス設備士、消防設備士、危険物取扱者（乙4類）など多くの資格取得を目指しています。

（4）観光サービス科

観光サービス科では、ホテルの料飲サービスを通してお客様に対する「おもてなし」の精神を学び、より良いサービスとは何かを気づかせることを基本としています。

そのため、模擬体験でのレストランのサービスや運営、ウェディングの企画などの繰り返し訓練を行うとともに、また、2年間で約45日間にわたる企業実習を行うなど、自らの体験を通してサービス技術を身に付けさせます。

さらに、「喜多方レトロ横町」や「川の祭典（花火・いかだ下り大会）」など地元自治体や観光団体が主催する各種イベントに参加し、企画運営にも携わ



写真5 観光サービス科実習

りながらボランティアガイドを行うなど、お客様の反応や心理を学びながら、ホスピタリティの習得を主とした訓練を行っています。また、県内各地の観光資源の調査や研究、情報発信の方法なども学んでいます。

資格としては、秘書検定やホテルビジネス実務検定、日商PC検定などを取得させています。

3. 短期大学校（専門課程）の開設

本県の基幹産業である製造業や観光産業においては、近年、少子化に伴う労働人口の減少や国際競争の激化など地域産業を取り巻く環境が大きく変化してきており、ものづくりの現場で働く技術・技能者に対しては、新技術への対応能力や問題解決能力、企画・立案能力等より高度な能力が求められています。

福島県では、このような産業の高度化に適應できる人材を育成するため、平成19年1月、本県労働審議会から「福島県高等技術専門校の高度化・再編整備に関する基本方針等について」の答申を受け、県内に3校ある高等技術専門校を「県立テクノアカデミー」として再編整備することとなりました。

短期大学校化については、以前から地元産業界からも強い要望が寄せられていたという背景もあり、県内3技専校における普通課程学科の一部を短期大学校（専門課程）へと転換するための具体的な検討が進められてきました。

その結果、郡山校においては、来年度（平成21年

度)から短期大学校として「精密機械工学科」,「組込技術工学科」の2科を開校することとなり,名称も『テクノアカデミー郡山』と改称し,専門課程,普通課程および短期課程を併せ持つ総合的な公共職業能力開発施設として生まれ変わります。

また,会津校と浜校においては,平成22年度から短期大学校を開校する計画で,会津校においては観光系,浜校においては電気系の学科を専門課程へ転換し,それぞれテクノアカデミーとして再編整備することを計画しています。

(1) 会津校における短期大学校の計画

会津校の短期大学校の計画について,現在までの検討内容をご紹介します。

会津校においては,現在の接客サービス訓練中心の「観光サービス科」に替えて,新たに「観光プロデュース科(仮称)」として短期大学校を開校する計画です。

このことは,本校が全国的にも有名な「観光会津」という地に立地しているということ,また,観光産業を取り巻く状況も団体旅行から少人数旅行,さらにアジアを中心とする外国人観光客の増加など大きく変化してきており,これらにより多様化する観光客のニーズに柔軟に対応できる優秀な人材が求められてきていることから,より質の高い知識や技術を持った人材を育成することが,本県の観光産業の振興に大きく寄与することになると考えられます。

専門課程の「観光プロデュース科(仮称)」は,2年課程で定員20名と少人数教育を実施することとしています。また,観光商品開発技術,顧客満足を高めるソフト技術,ITを活用した情報発信技術や外国語等のコミュニケーション技術などの教育訓練を中心とすることで,現在の普通課程とは内容を大幅に変更し,より高度な技術を身に付けた,新たな時代の観光産業を担う人材を育成していきたいと考えています。

これらの具体的な検討を行うため,昨年度,本校内に,外部からの専門委員も加え,校長をリーダーとする「専門課程準備検討会」を立ち上げ,より高度な技術だけでなく,自ら課題を考え,提案できる

幅広い視野と知識を身に付けさせるため,教育科目に経営学概論や販売企画論などの特色ある授業を盛り込むこととし,観光を主な産業とする県内の自治体や関係産業界の方々の御意見をうかがいながら,開校に向け引き続き検討を行っています。

(2) 短期大学校の基本理念等

3校の短期大学校の基本理念として『新たな時代の産業を担う実践技術者の養成』を掲げ,「社会性豊かな人格形成」,「主体的な創造能力の開発」,「実践的な職業能力の開発」の3点を主とした人材の育成を目指します。

また,「観光プロデュース科(仮称)」の基本方針を《地域を愛し,豊かな感性と高いビジネス能力を持つ観光人材の養成》として,①〔観光プロデュース技術=地域資源を活用した観光商品の企画・提案を行う実践技術〕,②〔コミュニケーション技術=ITを活用した情報発信や外国語による応対等の実践技術〕,③〔ホスピタリティ技術=場面に応じた「おもてなし(接待)」の実践技術〕を3本柱として,具体的な教科指導計画の策定を行っています。

今後,国や民間教育訓練機関などとの協議を行いながら,さらに検討を重ねる必要がありますが,平成22年度の短期大学校開校に当たっては,これまでにない魅力ある内容の学科とすることができるよう,今後とも多くの方々の御意見をお聴きしながら,「観光会津」,ひいては「観光立県福島」のリーダーと成り得るような優秀な人材の輩出を目指していきたいと思っています。

4. トピックス

“技能五輪全国大会で2年連続入賞

19年度「銀賞」20年度「敢闘賞」に輝く”

最近の大きな話題は,環境システム科の学生が,昨年度2名,今年度1名が技能五輪全国大会の「冷凍技術部門」に出場し,昨年度は「銀賞」,今年度は「敢闘賞」の栄誉を獲得することができたことです。



写真 6 技能五輪競技風景

冷凍技術競技は、冷媒を通す配管を施工条件に基づき作成し、その出来栄と正確さを競うものです。4時間という短い競技時間と緊張の中で、与えられた課題に忠実に、いろいろな材質の管をいろいろな長さに切断し、曲げ、溶接などを正確に行う技術が必要となります。

このような技術を身に付けるには、多くの訓練時

間と本人たちの努力はもちろん、指導者の方々の多大な協力がなければ叶いませんでした。

広い実習場での授業時間外にまで及ぶ訓練は、昨年度は冬期間の厳しい寒さと、今年度は真夏の暑さとの戦いでもありましたが、指導者の熱い情熱に支えられ、厳しい環境の中で数ヵ月にわたる訓練に耐え、本番では、その実力の限りを出し切り、見事に制限時間内に作品を仕上げることができ、なおかつ入賞できたことは、学生にとって大きな自信につながったようです。

この経験については、他の学生にも大きな刺激となり、出場者に対する祝福と同時に、日常訓練では得難い何かを得たように見受けられました。

最後に、限らない若者の能力の偉大さに改めて驚かされるとともに、彼らの目標に向かって突き進むひたむきさ、大舞台での実に堂々たる戦いぶりに改めて拍手を送ります。

◆セミナー開催のご案内

事業所のためのアセスメント・ツールセミナー

厚生労働省編一般職業適性検査〔GATB〕
事業所用セミナー「基礎理論コース」

■開催日：2月17日・3月17日（東京）

【セミナー内容】

- 1 GATB（事業所用）の概要・理論
- 2 検査用紙の種類と器具検査
- 3 紙筆検査の実施法
- 4 下位検査の進め方
- 5 結果の整理と解釈

キャリア・インサイトMC講習会

■開催日：2月5日・3月5日・3月30日（東京）

【セミナー内容】

キャリア・インサイトMCの機能と活用について

- 1 システムの概要
- 2 構造
- 3 個別機能
- 4 その他の機能
- 5 使用上の留意点

■お申し込み／
お問い合わせ

社団法人 雇用問題研究会

<http://www.koyoerc.or.jp>

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-14 電話 03-3523-5182（普及促進部）FAX 03-3523-5187

東京会場：（社）雇用問題研究会 会議室

キャリア・カウンセリングセミナー

キャリア・カウンセリングセミナー
「基礎理論コース」

■開催日：3月23日～30日（東京）

【コース内容】

- ・KN式クレベリン作業性格検査
- ・VPI職業興味検査・職業レディネス・テスト
- ・厚生労働省編一般職業適性検査〔GATB〕
- ・キャリア・カウンセリング
- ・キャリア・インサイト
- ・キャリア・インサイトMC

